

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 12年5月

～求人・求職間のミスマッチから雇用の減少が続く

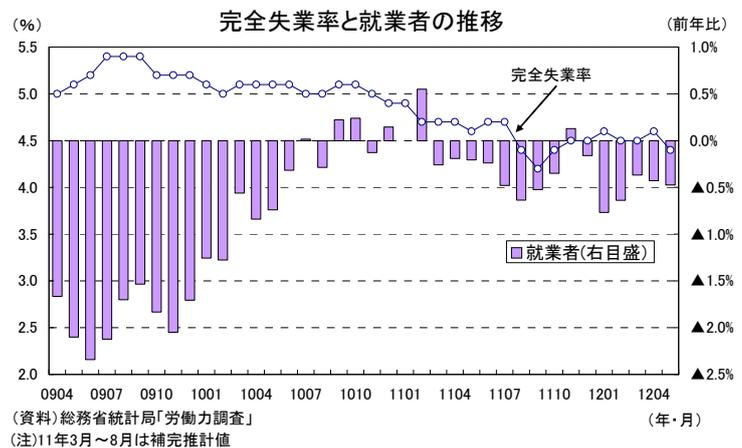
経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は前月から0.2ポイント低下の4.4%

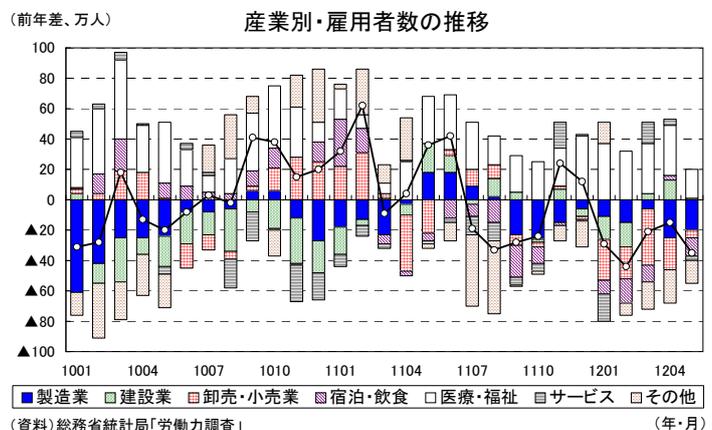
総務省が6月29日に公表した労働力調査によると、12年5月の完全失業率は前月から0.2ポイント低下し4.4%となった（QUICK集計・事前予想：4.5%、当社予想も4.5%）。

就業者数は前月と比べ10万人減と3ヵ月連続で減少したが、労働力人口が前月よりも20万人減少したため、失業者数は前月から10万人の減少となった（4月：299万人→5月：289万人）。失業率は低下したものの、非労働力化の進展がその要因となっており、内容的には良い失業率の低下とは言えない。1月からの5ヵ月で就業者数が49万人、雇用者数が53万人減少しており（季節調整値ベース）、依然として求人の増加が雇用に結びつかない状況が続いている。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業は前年比▲20万人減（4月：同▲25万人減）と9ヵ月連続の減少となった。鉱工業生産はこのところもたつきを見せているため、製造業の雇用減はしばらく続く可能性が高い。

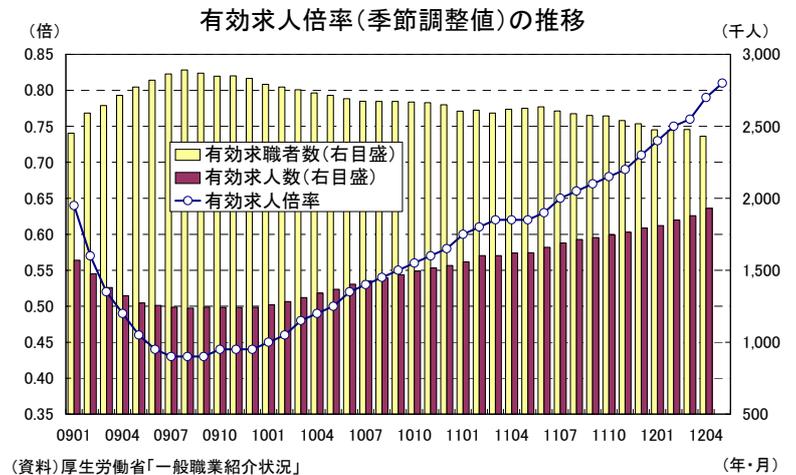
その他の産業では、公共工事の増加を反映し、建設業が前年比1万人増（4月：同13万人増）と3ヵ月連続の増加となったが、宿泊・飲食サービス業が前年比▲12万人減（4月：同3万人増）と減少に転じたほか、雇用増の主役となっている医療・福祉も19万人増（4月：同33万人増）と増加幅が縮小した。



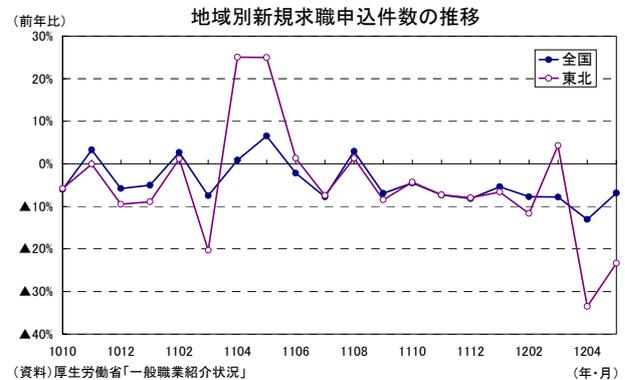
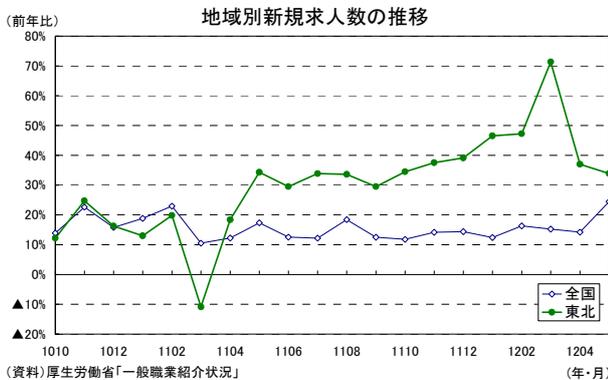
2. 地域間のミスマッチが深刻に

厚生労働省が6月29日に公表した一般職業紹介状況によると、12年5月の有効求人倍率は前月から0.02ポイント上昇し0.81倍となった(QUICK集計・事前予想:0.80倍、当社予想は0.82倍)。有効求人数が前月比2.4%と14ヵ月連続で増加する一方、有効求職者数が前月比▲0.2%と2ヵ月連続で減少した。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.07ポイント上昇の1.35倍となった。新規求職申込件数が前月比▲2.1%の減少となる一方、新規求人数は前月比3.0%の高い伸びとなった。



新規求人数を地域別に見ると、東北地方は全国を上回る高い伸びを続けているが、新規求職申込件数は全国よりも大きく減少している。東北地方の直近の新規求人数(季節調整値)は震災前(11年2月)よりも4割以上多くなっているが、新規求職申込件数は2割近く少ない。こうした地域間のミスマッチにより、求人の増加が就職件数の増加につながらない状況が続いている。5月の就職件数(全国ベース)は4月の前月比▲3.0%に続き同▲2.6%の減少となった。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。